

■ 編集委員

海老原康博（編集委員長）

秋岡 祐子 片桐 岳信 小林 国彦 千田みゆき 名越 澄子
堀江公仁子 町田 早苗 Chad L Godfrey（五十音順）

■ 編集後記

令和5年度も後1か月です。今年もいろいろなことがありました。世界的には、日本を含めて地震や台風などの自然災害の猛威、ロシアのウクライナ侵攻の継続やイスラエルのガザ侵攻など暗い話題が思い浮かびます。国内では、ハラスメントや不祥事が問題となりました。そんな中、藤井聡太棋士の史上初八冠、バスケットボール日本代表オリンピック出場、大谷翔平選手本塁打王獲得、大谷・山本由伸選手の移籍があり、2月末には大谷ロスとプライベートまで話題になりました。埼玉医大においては、これまで長く学長をお務めになった別所正美先生が退任され、令和5年8月1日から竹内勤先生が学長に就任されました。別所先生、長い間お疲れ様でした。また、竹内先生、これからよろしくお願ひ致します。

さて、埼玉医科大学雑誌50巻2号をお届けします。

本号には原著論文1報と症例報告2報が納められています。原著論文は、和田友則先生らがラットにおけるグレリン投与による摂餌量増加と食欲関連中枢神経活性化の関連性を詳しく検討しています。この研究結果が食欲不振に対してのグレリン投与の基礎的データになると考えられます。症例報告1つ目は、阿南朋恵先生らが造血幹細胞移植時に気道狭窄を起こした症例を報告しています。移植時に粘膜障害から喉頭浮腫をきたし気道狭窄を引き起こし気管内挿管される症例は稀なようです。2つ目は、泉亮良先生らが約50年前に行われたヒンジ型人工膝関節の弛みに対して再置換を施行した珍しい症例を報告しています。50年という長い年月を超えても機能を改善できた興味深い症例です。

さらに、令和5年11月に開催された第4回「オール埼玉医大研究の日」の開催報告を掲載しました。「オール埼玉医大研究の日」は村上孝先生をはじめ多くの先生方のご尽力により、開催されました。今年も学部学生や大学院生といった若手の研究発表もあり、着実に研究の芽が育っている印象でした。従来のポスター発表も開催され、あちこちでdiscussionが行われ活況を呈していました。

そのほか、学内グラント報告として、2022年度丸木記念特別賞された倉持泉先生の報告をはじめ、科研費申請支援に対する報告（26編）が掲載されています。

この編集後記を書いているのは3月上旬ですが、令和6年度の文科省科研費採択の発表があり、今年も多数の科研費が獲得されたようです。採択された先生、おめでとうございます。埼玉医科大学では、文科省科研費の採択率の向上を目指した「科研費アドバイザーによる研究計画調書のブラッシュアップ」を実施しています。若い先生方もこのような制度を利用して文科省科研費申請にチャレンジしてください。そして、研究費を獲得して、ご自身の研究をさらに進められることを期待します。

最後に、研究成果の投稿先の一つとして埼玉医科大学雑誌を考えて頂けたら幸いです。埼玉医科大学雑誌はJ-STAGEにも公開されていますので、世界中の研究者が閲覧することができます。皆様の投稿をお待ちしています。

（海老原康博）

埼玉医科大学雑誌

<https://www.saitama-med.ac.jp/jsms/>

第50巻 第2号

編集責任者

海老原 康博

令和6年3月16日 印刷

令和6年3月31日 発行

発行所

埼玉医科大学 医学会

350-0495 埼玉県入間郡毛呂山町毛呂本郷38

電話 049(276)2102/2030(直通) FAX 049(276)1860 E-mail: igakkai@saitama-med.ac.jp

製 作

レタープレス株式会社

広島市安佐北区上深川町809番地の5 電話(082)844-7500 <https://letterpress.co.jp/>